

山正ニュース

2015年10月号 (通巻77号)

< 山正 ネットワーク >

- ・本 社 ☎ <058>271-4468 岐阜県岐阜市市橋4-5-15
- ・広域資材肥料部 ☎ <058>271-4468 (本社内)
- ・岐阜営業所 ☎ <058>271-4466 (本社内)
- ・可児営業所 ☎ <0574>62-5228 岐阜県可児市川合345-1
- ・富山営業所 ☎ <0766>55-3882 富山県射水市大江207-1
- ・飛騨営業所 ☎ <0577>72-4866 岐阜県高山市国府町村山857-2
- ・愛知事務所 ☎ <0568>68-7430 愛知県小牧市久保一色町南2-181
- ・山正HPアドレス <http://www.yamasyou.com/>

§ 1 コメについて考える⑬

～価格回復の追い風になるか？

過剰作付が初めて解消され、民間在庫量も適正水準近くに圧縮へ！～

このところコメに関する重要な指標である生産調整における超過作付面積と、来年6月末における民間在庫量の見込みに対する注目が高まってきている。農水省によれば減反政策が開始されて以降初めて主食用米の過剰作付けが解消され、来年6月末の民間在庫量も適正水準近くに落ち着くと予想されることである。今年の最終的な作況にもよるが、需給の改善が大幅に進んで価格の回復と安定化につながることを期待できる状況となっている。

農水省が7月末現在で取りまとめた速報値によれば、今年産の主食用米の作付面積は目標の142万haに対し、8000ha程度下回る141.2万haとなる見通しで、主食用米の過剰作付けが解消されるのは現行の生産調整が昭和46年に始まって以降初めてのことである(図1参照)。これは、飼料米を中心に転作が大きく進んだ結果を反映したものとみられ、中でもコメの主産県である東北6県が過剰米の作付けを解消したことは注目に値する点と思われる。

転作が順調に進んだことによって、主食用の需給改善に好影響を及ぼす見通しにもなっている。米価の動向に大きな影響があるとされる来年6月末の民間在庫量は211万トンで、前年同時期より19万トン(1割)減少し、適正在庫量の200万トンにより近づくものとみられている(表1参照)。

このように、転作が順調に進み、過剰米の作付けが解消され、需給状況も改善の方向に向かっているのは主食用のコメの生産を守りたいとする絶妙なバランス感覚が農家の間に働いた結果ともいえなくもない。いずれにしても今後は需給改善が追い風となって価格回復につながることに期待したいところである。

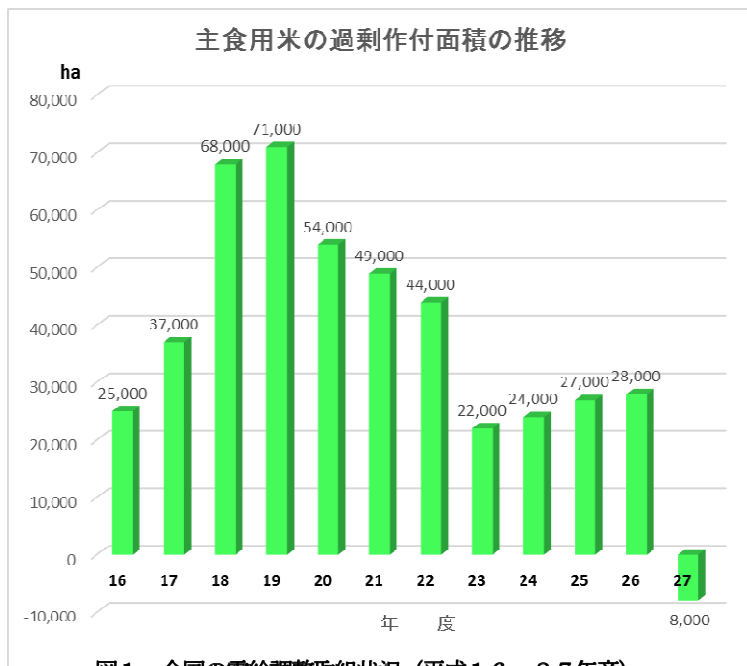


図1 全国の需給調整取組状況 (平成16～27年産)

米をめぐる関係資料 (農水省 H27・7) による H27は見通し

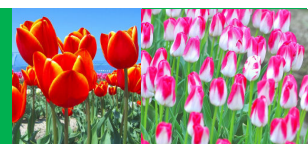
表1 主食用米の需給見通し

平成27/28年主食用米需給見通し		目 標 数 値 (万t)
指 標	数 値	
平成27年6月末 民間在庫量	A	230
平成27年産米 生産数量目標等	B	751
平27/平28年 主食用米等供給 量計	C=A+B	981
平27/平28年 主食用米等需要 量	D	770
平成28年6月末 民間在庫量	E=C-D	211

日本農業新聞 H27・8・1号を参考に作表



株式会社山正は、農薬・肥料・園芸ハウス・農業資材等の販売や、それに伴う農地・緑地・街路樹等のメンテナンス業務を通じ、地域農業や地域の環境緑地化への貢献を目指しています。



§ 2 飼料米の流通を巡る新たな動向

～コメの卸や生産者による新会社等が取引に参入、
生産と消費のマッチングの円滑化に期待！～

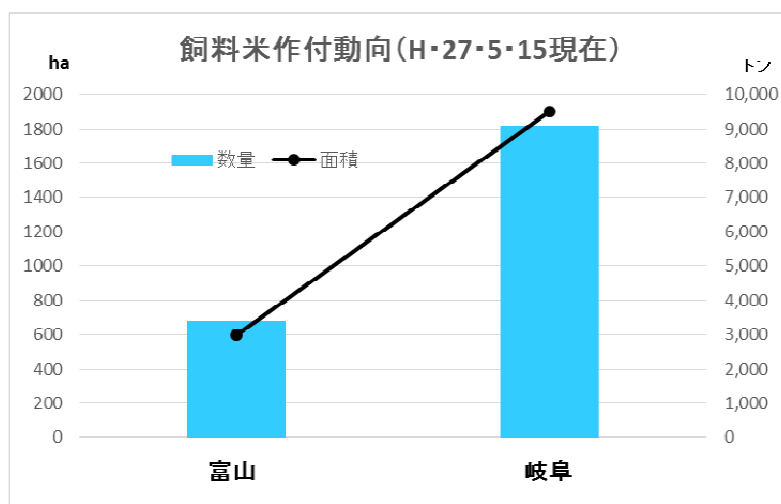
今年の出来秋から来年の6月末までの民間在庫量の改善が大幅に進み適正水準に近付きつつあることは§1で述べたとおりであるが、その大きな要因は飼料米の作付けが大きく進んだことによる。農水省が取りまとめた7月末の速報値によれば全国で作付けが予定されている飼料用米の面積は79,000ha、生産量は42万トン相当に上るとされている（数値は新聞紙上等の報道を参考）。

県別に公表されている数値としては5月15日のものが最も新しいが、それによれば弊社管内の岐阜では栽培面積1,900ha、生産量9,100トンとなっている。同様に富山ではそれぞれ600ha、3,400トンとなっており（下図参照、数値は米をめぐる関係資料；農水省、H27・7による）、最終的な数値は若干変動することが予想されるものの、これらが弊社管内における飼料米生産の実態とみられる。弊社の管内においても飼料米に対する取り組みが着実に進んできていることを示すものといえよう。

ところで、これまでは生産された飼料米の集荷・保管と流通の仲立ちはJAに期待するという構図になっていたことは周知のとおりであるが、ここへきて生産と消費に円滑な役割を果たすことが期待できる新たな動きが出てきている（下表）。

それは飼料米を積極的に取り扱おうとする民間のコメ卸や生協関連組織、取引仲介会社等が現れてきたことである。

これまでは大量に集荷・保管された飼料米を民間の飼料会社までスムーズに移動する体制に難点があるとされていたが、コメ卸は配合飼料メーカーの要望に→



飼料用米の取り扱いに対する新たな動き

参入タイプ	業務内容	所在地等
コメ卸	配合飼料メーカーへ飼料用米を販売	木徳神糧(東京)、ライスフィールド(帯広)、神明アグリ(神戸)
生協連	飼料用米の広域流通	グリーンコープ連合(福岡)
取引仲介会社	農家自らが設立した会社による飼料米取引の仲介	合同会社ぐるる富山(小矢部)

応じてフレキシブルに対応したいとしている。また、生協連は地元のJAと連携して飼料米の広域流通を図りたいとしている。

さらに注目される動きとして、弊社のお得意様でもある企業的な稲作経営者によって設立された取引仲介会社では、飼料米の供給先を確保し、農家自らが飼料米の生産と安定供給を図りたいとしている。これらの動きが加速すれば飼料米生産が一層進むと思われる。

新入社員紹介コーナー

氏名 沢辺 将成
所属 富山営業所
入社 平成27年4月



《抱負・決意》

私は去年まで富山県立小杉高校の柔道部で全国制覇をめざし、日々厳しい練習に励んでいました。卒業後は応援し続けてくれた家族を始め、地域の方々から早く恩返しをしたいと思い地域密着型の山正に入社しました。

農業、営業ともに経験がなく毎日が精一杯ですが、頼りになる先輩方のおかげで毎日が充実しています。この山正で社会人としての経験を積み重ね、会社や地域の農業に貢献できるよう頑張っていきますので、これからもよろしくお願いたします。

§1 コメについて考える⑩～価格回復の追い風になるか？

過剰作付が初めて解消され、民間在庫量も適正水準に～（名畑技術）・・・1ページ

§2 飼料米の流通を巡る新たな動向～コメの卸や生産者による新会社等が取引に参入、

生産と消費のマッチングの円滑化に期待！（名畑技術顧問）・・・2ページ

囲み記事 新入社員紹介コーナー（業務部）・・・2ページ